

「今週の1枚」



クマノミズキ（ミズキ科）

半月くらい前まで、白い花が山地の谷沿いによく見られた。和歌山県の熊野にちなんでクマノミズキと呼ばれる。葉が向かい合ってつき、枝が角張っている点でミズキと区別される。ミズキの名は幹に水分が多いことから名づけられた。普通、樹木の幹や枝の内部は葉から水分が蒸散するために数気圧以上もの負圧（マイナスの気圧）になっている。根から吸い上げられる水の方が葉から出ていく量より多いと水分の負圧が少なくなり、朝方にはプラスになってしまうので、枝を切ると中から水があふれ出るほどになる。ミズキ類はそのような傾向が強い。そのため、乾燥した尾根地には生育せず、谷沿いの湿った場所を好む。

（No.5 2001.7.2 掲載）